

NCC株式会社

2023 年度(66期) 環境経営レポート

(対象期間 2023 年10月1日～2024 年9月30日)



作成日: 2025年4月14日

目 次

項 目	ページ
表紙	1
目次 経営理念	2
1. 環境経営方針	3
2. 組織の概要	4
3. 事業・製品の紹介	5～7
4. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表	8
5. 主な環境負荷の実績	9
6. 環境経営目標及びその実績	9
7. 環境経営計画の取組結果とその評価	10～15
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	16
9. 緊急事態対応訓練	16
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	17

経営理念 Mission

お客様にお喜び戴ける価値の創造が私たちの喜びであり、存在の意義である。

いかなる時もお客様が必要とする機能性を発揮しうる存在であろう。
お認め戴ける価値とは常にお客様の喜びの中にあることを忘れずにいよう。
私たちの頂戴する利益の全てはお客様にお認め戴いた価値であることを想起しよう。

会社とは社長をはじめ社員の一人ひとりが自らを知り、自らを成長させる手段である。

一人ひとりの成長は個人生活に限らず、お客様や仕入先様、社員相互、取扱い商品やサービスなど、会社生活を含めた、私たちに関わる一切と自身との複雑な交感によって実現されるものです。自らが自らのみで生きるのではなく、他との関係の中で生かされる者であることを知ろう。自らが他を生かす者であることを望もう。

品質方針 Quality policy

信頼性と安全性に優れ、機能と機動性に満ち、コストパフォーマンスの高い商品とサービスの提供

経営理念の実現に向け、顧客に対し常に「満足と信頼」を提供することに最善を尽くす。
このため私は品質方針を上記の通り定め、全社員に周知徹底し、全社員と共にこの達成に向かって前進することを宣言する。

エヌシーシー株式会社
代表取締役 原田 学

1.環境経営方針

環境経営方針

NCC(株)は、当社の経営理念の基、企業価値を持続的に高めるESGに配慮した経営・事業戦略を推進し、二酸化炭素排出量等の削減や環境法令順守など環境負荷低減活動に取り組み、低炭素社会の実現に寄与します。本業を通じた環境経営の活動により、環境と経済の好循環に貢献し、SDGsやCSRの達成を目指します。

<環境経営への行動指針>

1. 具体的に下記のことに取組みます。

①電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減			
②廃棄物の3R(減量、再利用、再生利用)の推進			
③水資源の節水			
④有機溶剤等の化学物質の適正管理			
⑤環境に配慮した商品やソリューションの提供			 

これらについて環境目標・活動計画書を定め、定期的に見直しを行い継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法法規制や当社が約束したことを順守します。

制定日：2019年4月1日

NCC株式会社
代表取締役社長 原田 学



2.組織の概要

更新日：2025年4月14日

(1) 名称及び代表者名

NCC株式会社

代表取締役社長 原田 学

(2) 所在地

本社 〒396-0026 長野県伊那市西町4983番地(登記上)

伊那支店(本社) 〒399-4431 長野県伊那市西春近上島2431番地

長野支店 〒381-0101 長野県長野市若穂綿内字東山1114-10

松本支店 〒390-1189 長野県松本市大字今井字松本道7155-55

上田支店 〒386-0412 長野県上田市御嶽堂原山2515-15

諏訪支店 〒392-0015 長野県諏訪市中洲柳坪2442-1

プラスデコ 〒392-0015 長野県伊那市西春近2333番地-1

F1クリーン事業部 〒570-0032 大阪府守口市菊水通4-1-3

※ 関東事業所 〒374-0123 群馬県邑楽郡板倉町飯野141-1 2025年度拡大予定

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 原田 遊

TEL: 0265-72-7161

担当者 原田 遊

(4) 事業内容

塗料製造・塗料配合および販売、各種溶剤・化成品等の工業用資材・副資材の販売、塗料設備・洗浄設備等の工業用設備・機械等の販売及びメンテナンス、化学品等の海外輸出入業務、内外装塗装・床塗装・防水施工等の住宅リフォーム

(5) 事業の規模

設立 昭和33年10月22日

資本金 8,000万円

売上高:(66期実績)2023年10月~2024年9月

総従業員数 107名

	伊那支店(本社)	長野支店	松本支店	上田支店	諏訪支店	プラスデコ	F1クリーン事業部
従業員 名	38名	15名	10名	17名	11名	12名	4名
延べ床面積 m ²	2,057	1,000	841	535	490	1,096	33

◇ 受託した産業廃棄物の処理量 ※内訳(特別管理産業廃棄物の廃油(引火性廃油)のみで他の産業廃棄物は含みません。)

収集運搬量	187.0 t	うち再資源化量	89.2 t
中間処理量	- t	うち再資源化量	- t
最終処分量	- t		
中間処理後の産廃の処分量	- t	うち再資源化量	- t

車種	台数	備考
中型4tトラック	12台	
合計	12台	

積み替え保管施設

名称	保管面積	保管上限	備考
伊那支店	15.84 m ²	3 t	屋内保管
長野支店	14 m ²	1.2 m ³	高さ上限:0.9m
上田支店	13 m ²	3 t	屋内保管
松本支店	13 m ²	3 t	屋内保管
諏訪支店	13 m ²	3 t	屋内保管

◇ 許可の内容

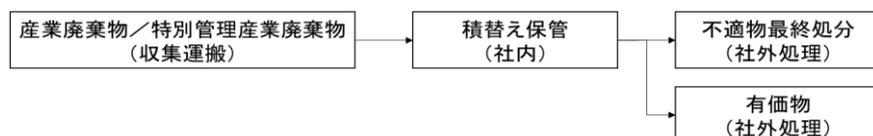
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	汚泥	廃油	廃酸
長野県	2063006546	令和5年7月20日	令和10年7月19日	有		○	
長野市	9562006546	令和5年9月5日	令和10年7月19日	有		○	
新潟県	1559006546	令和6年2月14日	令和11年2月2日	無		○	
山梨県	1960006546	令和5年10月13日	令和10年10月12日	無		○	

産業廃棄物収集運搬業許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	汚泥	廃油	廃プラ	ガラス・コンクリート・陶器くず
長野県	2003006546	令和2年10月20日	令和7年10月19日	無	○	○	○	○
山梨県	1900006546	令和2年10月23日	令和7年10月22日	無	○	○		

◇ 廃棄物処理フロー



(6) 事業年度 10月1日～9月30日

□ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: NCC株式会社
対象事業所: 伊那支店(本社)
(全組織での活動) 長野支店
上田支店
松本支店
諏訪支店
プラスデコ
FIクリーン事業部

※関東事業所(2025年度拡大予定)

3. 事業や製品(商品)の紹介

機能多彩力

「顧客の現場に良い変化を起こす」を使命とし、お客様に応じて商品とサービスの最適解を導きます。



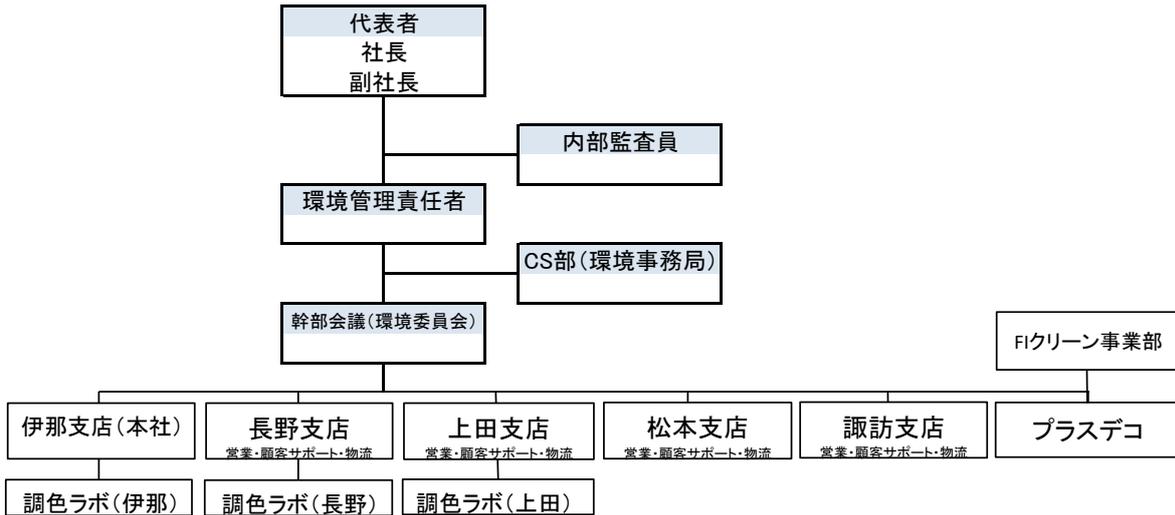
顧客の現場に笑顔を。

NCCがお届けしたいのは商品にとどまりません。産業の最前線が求める課題解決のために、新たなヒントを導き出すこと。技術や商品を最大限・最適に応用すること。製品を高品質に適量で製造、供給すること。そして効率的な生産・物流行程、安心・安全な作業環境をお客様とともに構築すること。

あらゆる産業分野のお客様から寄せられるご期待に、NCCは機能多彩にスペシャリストとしてお応えすることを目指しています。

4.環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2025年4月14日

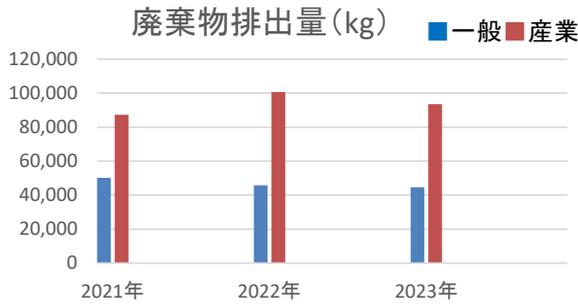
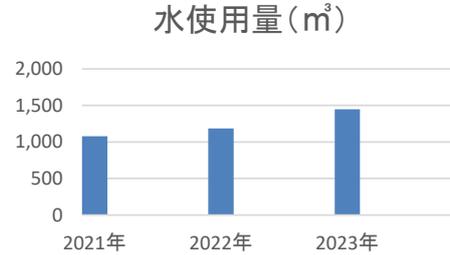
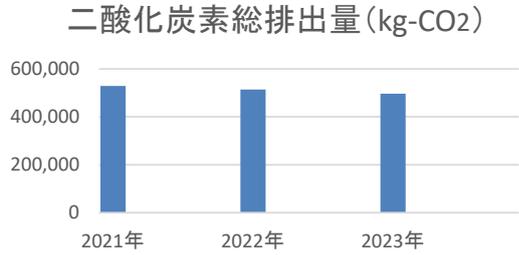


	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、幹部会議(環境委員会)の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
幹部会議(環境委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する内部監査の計画 環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2021年	2022年	2023年
		(64期)	(65期)	(66期)
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	528,780	514,357	496,331
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	50,219	45,838	44,714
産業廃棄物排出量	kg	87,296	100,700	93,529
水使用量	m ³	1,080	1,186	1,447

※二酸化炭素排出係数 0.472 kg-CO₂/kWh 2017年／中部電力の調整後の係数



6. 環境経営目標及びその実績

項目	年度	2022年		2023年		評価	2024年	2025年
		(65期)	(66期)	(66期)	(67期)		(68期)	
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)	
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	128,944	127,654	128,374	×	126,365	125,075	
	基準年度比	100%	99%	100%		98%	97%	
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	23,862	23,623	25,894	×	23,384	23,146	
	基準年度比	100%	99%	109%		98%	97%	
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	351,110	347,598	342,052	○	344,087	340,576	
	基準年度比	100%	99%	97%		98%	97%	
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	55	55	11	○	54	54	
	基準年度比	100%	99%	19%		98%	97%	
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	503,970	498,930	496,331	○	493,891	488,851	
一般廃棄物の削減(焼却ゴミ)	kg	34,128	33,787	35,656	×	33,445	33,104	
	基準年度比	100%	99%	104%		98%	97%	
産業廃棄物の削減	kg	99,275	98,282	93,529	○	97,290	96,297	
	基準年度比	100%	99%	94%		98%	97%	
水道水の削減	m ³	1,228	1,216	1,447	×	1,203	1,191	
	基準年度比	100%	99%	118%		98%	97%	
化学物質の適正管理		適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理	
環境に配慮した生産活動		行動目標(次項による)						

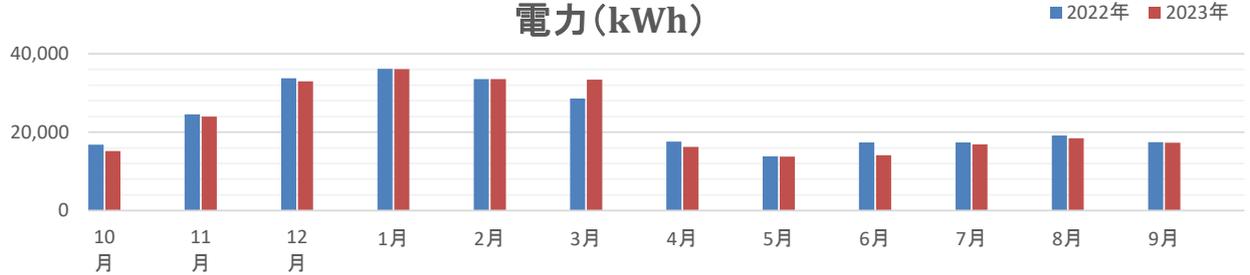
7.環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画(全社)

数値目標:○達成 ×未達成

活動:◎よくできた(90%以上)△まあまあできた(70%~90%)×できなかった(70%未満)

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	×	取組結果とその評価、次年度の取組計画 66期は、全体的に65期と比較して傾向や電力使用量に大きな変化は見られませんでした。が、冬季において電力使用量が特に増加しました。夏季と比べても顕著に消費量が多かったため調査を行ったところ、伊那支店の床暖房が主な要因である可能性が高いと推察されます。 【次年度の取り組み】床暖、空調使用の最適化(特に伊那支店)や省エネ機器の導入、従業員への節電意識の啓発を通じて、電力使用量の抑制に努めてまいります。
数値目標	×	
・空調温度の適正化(設定目安冷房27℃ 暖房22℃)	△	
・不要照明の消灯	○	
・COOLBIZ	○	

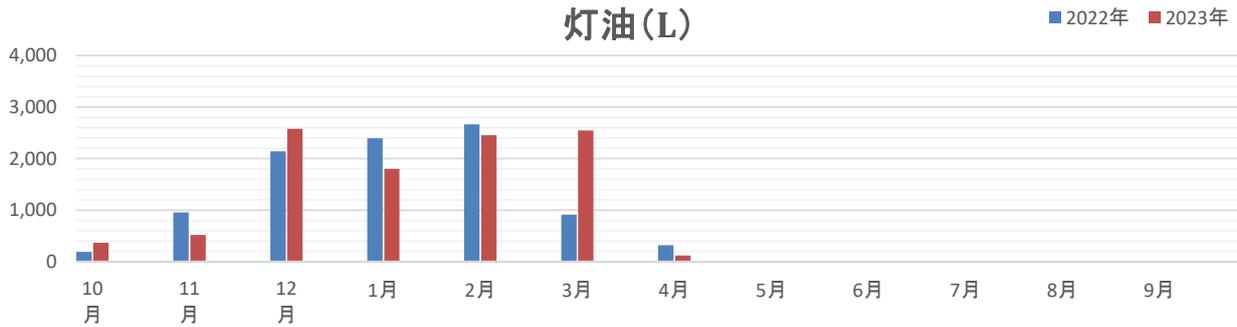
電力(kWh)



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2022年	16,830	24,532	33,758	36,176	33,557	28,593	17,618	13,857	17,351	17,351	19,167	17,452
2023年	15,212	23,976	32,967	36,084	33,532	33,372	16,243	13,800	14,142	16,894	18,468	17,289

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
灯油による二酸化炭素削減	×	取組結果とその評価、次年度の取組計画 2023年3月の灯油使用量が、例年に比べ多くなっており、全体として前年比約9%の増加が確認されました。明確な要因は特定できておりませんが、考えられる原因としては、例年に比べ3月の気温が低かったことや、寒の戻りによって暖房の使用期間が延びたことが挙げられます。 【次年度の取り組み】気温変動に備えた暖房使用の見直しと設備の効率的な運用を通じて、灯油使用量の抑制に努めてまいります。
数値目標	×	
・調色の計画的安定生産	○	
・適正温度管理	△	

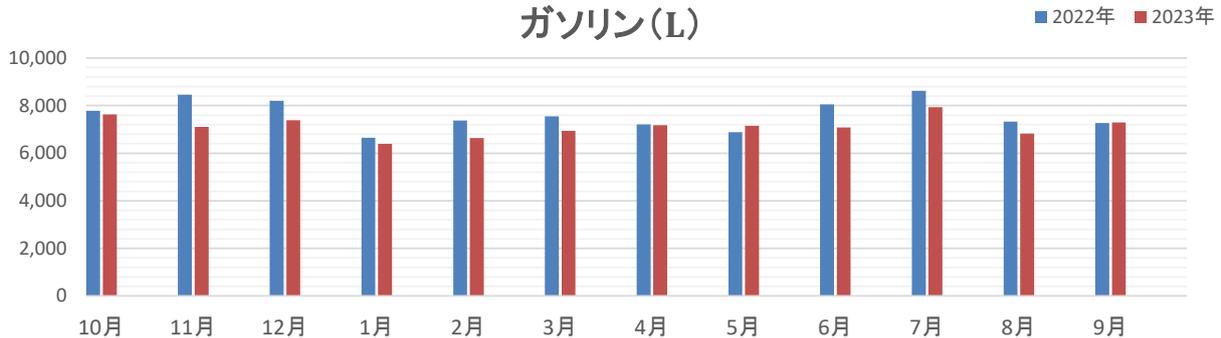
灯油(L)



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2022年	190	956	2,142	2,398	2,665	912	320	0	0	0	0	0
2023年	370	522	2,579	1,805	2,455	2,547	121	0	0	0	0	0

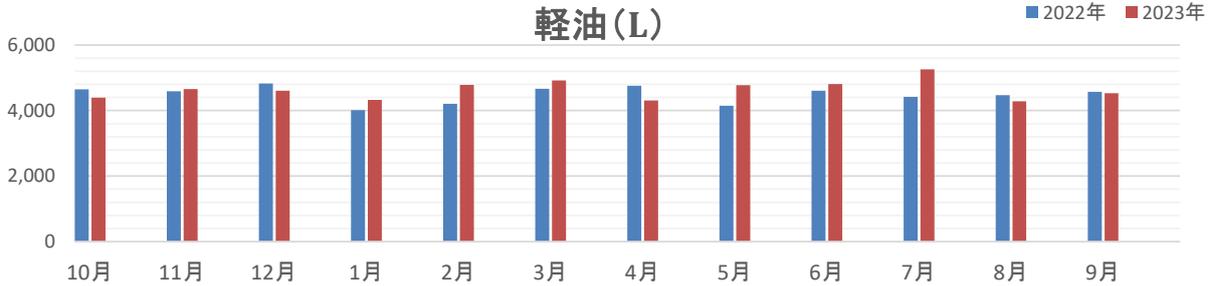
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	66期のガソリン使用量は、前期実績と比較して1.5%の増加となりました。この要因として、対面での営業活動が増加したことに伴い、自動車の使用頻度が上昇したことが影響していると考えられます。 【次年度の取り組み】接触型営業を継続しながらも、アイドリングストップやエコドライブに関する教育・声掛けを徹底し、燃料使用量の抑制に努めてまいります。
・アイドリングストップ	△	
・高効率配送ルートの設定	○	
・積載効率改善	△	
・エコドライブ	△	

ガソリン(L)



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2022年	7,789	8,458	8,206	6,650	7,379	7,546	7,208	6,882	8,052	8,624	7,330	7,268
2023年	7,630	7,106	7,382	6,392	6,640	6,947	7,176	7,147	7,077	7,939	6,827	7,291

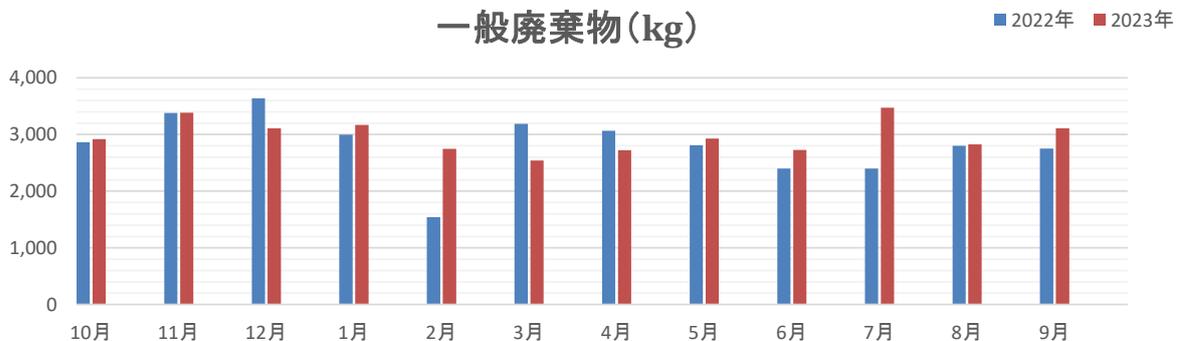
軽油(L)



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2022年	4,648	4,591	4,824	4,009	4,204	4,663	4,757	4,148	4,603	4,415	4,470	4,575
2023年	4,394	4,656	4,610	4,325	4,787	4,916	4,305	4,776	4,810	5,260	4,280	4,531

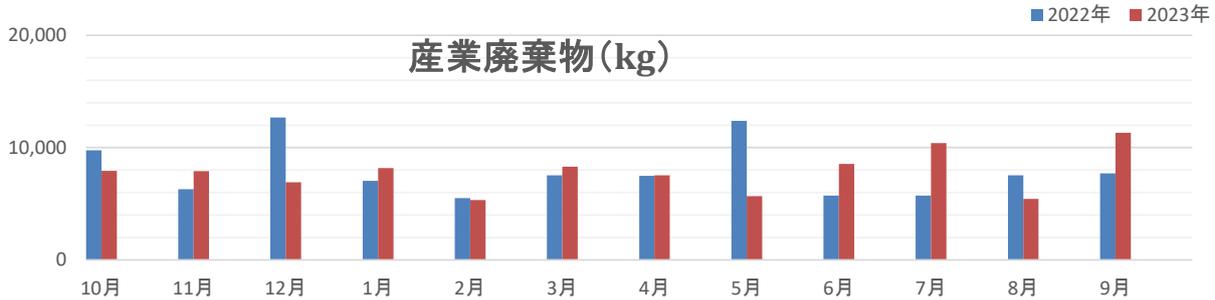
一般廃棄物の削減(焼却ゴミ)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【次年度の取り組み】本項目には長野支店、上田支店の一般産業廃棄物の排出量が含まれているため、正確なデータではない。これについては次回の課題とし、67期では2支店の計測方法を変更する。
・分別の徹底	○	
・コピー裏紙の利用	△	
・ペーパーレス会議	△	
・5S活動	△	

一般廃棄物(kg)



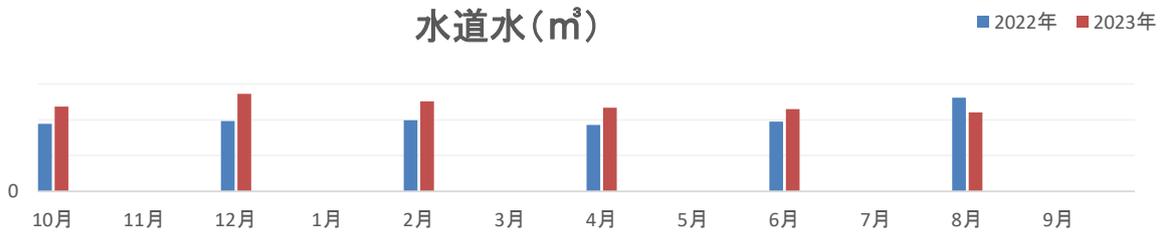
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2022年	2,867	3,379	3,639	2,999	1,539	3,189	3,066	2,809	2,399	2,399	2,799	2,754
2023年	2,919	3,384	3,109	3,169	2,749	2,539	2,724	2,929	2,729	3,472	2,824	3,109

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【次年度の取り組み】長野支店、上田支店における一般産業廃棄物の排出量が一般廃棄物に含まれているため、正確なデータ計上ができなかった。本項目については次回の課題とし、67期では2支店の計測方法を変更する。
・不適合削減	△	
・適正在庫	△	



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2022年	9,761	6,297	12,677	7,036	5,505	7,533	7,477	12,377	5,731	5,731	7,539	7,702
2023年	7,922	7,917	6,913	8,187	5,334	8,313	7,538	5,685	8,557	10,414	5,435	11,314

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	前年と比較して15%の増加となりました。明確な要因は確認されておりませんが、漏水や異常使用等の兆候は見受けられず、現時点では特定の異常要因による増加ではないと考えられます。 【次年度の取り組み】使用状況の定期的な確認と、節水意識の向上を図ることで、水道使用量の抑制に努めてまいります。
・漏水の監視	○	
・節水の啓蒙	○	



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2022年	189	0	197	0	199	0	186	0	195	0	262	0
2023年	237	0	273	0	252	0	234	0	230	0	221	0

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
達成状況	○	66期におけるPRTR対象化学物質の使用量把握およびSDS(安全データシート)の適正な管理は確実に実施されており、化学物質管理体制が維持されていることを確認しました。 【次年度の取り組み】引き続き同様の活動を継続し、適正な管理の徹底と、安定した生産活動を通じて化学物質の無駄な使用を防止することに努めてまいります。
・SDS管理の徹底	○	
・PRTR対象品の使用量の管理	○	

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・不良率低減	○	調色部門における5S活動と作業品質の向上により、不良率の低減につながっている。 【次年度の取り組み】引き続き顧客満足度の向上とSDGsに配慮した生産活動に努める。
・顧客クレーム削減	△	
・顧客満足度の向上	△	
・調色ラボのショールーム化	△	

課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・業務基幹システムによる業務標準化	△	経営方針に沿った活動を進めている。 【次年度の取り組み】経営理念、経営方針、部門計画の実践が、環境経営・SDGsに繋がることを認識させ、形式よりも実質を重視した取り組みを定着させる。
・No.1戦略による顧客獲得	△	
・働き方改革	△	

◆各サイトの目標と実績・評価

伊那支店		2022年	2023年			2024年	2025年
		(65期)	(66期)		(67期)	(68期)	
		基準年	目標	実績	評価	目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	59,768	59,171	57,590	○	58,573	57,975
	基準年度比	100%	99%	96%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	5,809	5,751	5,595	○	5,693	5,635
	基準年度比	100%	99%	96%		98%	97%
自動車による二酸化炭素削減	kg-CO2	121,724	120,506	116,908	○	119,289	118,072
	基準年度比	100%	99%	96%		98%	97%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	187,301	185,428	180,093	○	183,555	181,682
一般廃棄物(可燃物)の削減	kg	440	436	288	○	431	427
	基準年度比	100%	99%	65%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	18,894	18,705	16,000	○	18,516	18,327
	基準年度比	100%	99%	85%		-	-
水道水の削減	m	773	765	887	×	758	750
	基準年度比	100%	99%	115%		98%	97%
化学物質管理(PRTR)		適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理
評価							
<p>本年度は、全体の二酸化炭素排出量に関する目標を達成することができました。一方で、床暖房の使用方法が適切でなかった可能性があり、それにより伊那支店の電力使用量がかなり高くなっている可能性があります。</p> <p>【次年度の取り組み】 接触型営業の継続を前提としつつ、引き続きエコドライブの呼びかけや交通安全と連動した教育の実施により、燃料使用の効率化を図ります。また、床暖房の使用についてもルールを決めて、適切な運用をしていきます。</p>							

長野支店		2022年	2023年			2024年	2025年
		(65期)	(66期)		(67期)	(68期)	
		基準年	目標	実績	評価	目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	7,522	7,447	6,653	○	7,371	7,296
	基準年度比	100%	99%	88%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	4,290	4,247	5,105	×	4,204	4,162
	基準年度比	100%	99%	119%		98%	97%
自動車による二酸化炭素削減	kg-CO2	72,184	71,462	64,852	○	70,740	70,018
	基準年度比	100%	99%	90%		98%	97%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	83,996	83,156	76,610	○	82,316	81,476
一般廃棄物(可燃物)の削減	kg	17,765	17,587	20,805	×	17,410	17,232
	基準年度比	100%	99%	117%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	15,975	15,815	9,275	○	15,656	15,496
	基準年度比	100%	99%	58%		98%	97%
水道水の削減	m	111	110	154	×	109	108
	基準年度比	100%	99%	139%		98%	97%
化学物質管理(PRTR)		適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理
評価							
<p>本年度は、電力および自動車燃料において優れた削減成果が見られた一方で、灯油使用量が目標を大きく上回ったことは課題として認識しています。さらに、水道水使用量に関しては、目標値を約40%超過しており、極めて深刻な状況といえます。これらの点については、資源管理の偏りや未然防止の不十分さが影響している可能性があり、部門横断的な確認と改善が必要と考えます。</p> <p>【次年度の取り組み】 現時点で明確な原因は判明していませんが、水道水の異常な使用量増加については速やかに検証を行い、必要な対策を講じてまいります。また、一般廃棄物と一般産業廃棄物を分けてデータ入力をするようルールを改めます。</p>							

上田支店		2022年	2023年			2024年	2025年
		(65期)	(66期)			(67期)	(68期)
		基準年	目標	実績	評価	目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	7,253	7,181	7,334	×	7,108	7,036
	基準年度比	100%	99%	101%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	6,325	6,261	8,112	×	6,198	6,135
	基準年度比	100%	99%	128%		98%	97%
自動車による二酸化炭素削減	kg-CO2	31,339	31,025	52,523	×	30,712	30,398
	基準年度比	100%	99%	168%		98%	97%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	44,916	44,467	67,970	×	44,018	43,569
一般廃棄物(可燃物)の削減	kg	14,250	14,108	13,680	○	13,965	13,823
	基準年度比	100%	99%	96%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	0	0	0	×	0	0
	基準年度比	-	-	-		-	-
水道水の削減	m	44	44	46	×	43	43
	基準年度比	100%	99%	105%		98%	97%
化学物質管理(PRTR)		適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理
評価							
<p>本年度の二酸化炭素排出量は全体として増加傾向にあり、特にガソリン使用量においては目標値に対して68%の超過が確認されました。この著しい増加の要因としては、対面型の営業活動や接客の機会の増加に加え、配送による車両稼働の増加が挙げられます。これらは業務上の必要性に基づくものである一方で、排出量管理の観点からは重要な課題と捉えています。</p> <p>【次年度の取り組み】 引き続き営業活動は維持しながらも、エコドライブの徹底や配送ルートの最適化を含めた運用改善を進め、排出量の抑制に努めてまいります。また、一般廃棄物と一般産業廃棄物を分けてデータ入力をするようルールを改めます。</p>							

松本支店		2022年	2023年			2024年	2025年
		(65期)	(66期)			(67期)	(68期)
		基準年	目標	実績	評価	目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	9,580	9,484	9,423	○	9,388	9,292
	基準年度比	100%	99%	98%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	3,635	3,599	3,147	○	3,563	3,526
	基準年度比	100%	99%	87%		98%	97%
自動車による二酸化炭素削減	kg-CO2	50,661	50,154	37,773	○	49,648	49,141
	基準年度比	100%	99%	75%		98%	97%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	63,876	63,237	50,344	○	62,599	61,960
一般廃棄物(可燃物)の削減	kg	800	792	0	○	784	776
	基準年度比	100%	99%	0%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	0	0	2,950	○	0	0
	基準年度比	-	-	-		-	-
水道水の削減	m	131	130	203	×	130	127
	基準年度比	100%	99%	155%		99%	97%
化学物質管理(PRTR)		適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理
評価							
<p>本年度は、全体の二酸化炭素排出量に関する目標を達成することができました。とりわけガソリン使用量の減少が顕著に表れています。営業件数の減少が考えられます。一方で、水道水使用量については目標未達となり、特に増加傾向が顕著であることが確認されました。</p> <p>【次年度の取り組み】 水道水についても、節水の重要性を改めて周知し、使用量の抑制に努めてまいります。</p>							

諏訪支店		2022年	2023年			2024年	2025年
		(65期)	(66期)		(67期)	(68期)	
		基準年	目標	実績	評価	目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	5,419	5,365	4,786	○	5,311	5,256
	基準年度比	100%	99%	88%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	3,628	3,592	3,536	○	3,555	3,519
	基準年度比	100%	99%	97%		98%	97%
自動車による二酸化炭素削減	kg-CO2	56,934	56,365	52,676	○	55,795	55,226
	基準年度比	100%	99%	93%		98%	97%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	65,981	65,321	60,998	○	64,661	64,001
一般廃棄物(可燃物)の削減	kg	816	808	816	×	800	792
	基準年度比	100%	99%	100%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	9,841	9,743	6,083	○	9,644	9,545.77
	基準年度比	100%	99%	62%		98%	97%
化学物質管理(PRTR)		適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理
評価							
本年度は、概ねすべての項目において、目標値の達成または前年比での削減を実現することができました。							
【次年度の取り組み】 引き続き、環境負荷の低減と効率的な資源活用を目指し、各項目における取組を継続・強化してまいります。							

プラスデコ		2022年	2023年			2024年	2025年
		(65期)	(66期)		(67期)	(68期)	
		基準年	目標	実績	評価	目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	37,535	37,160	40,867	×	36,784	36,409
	基準年度比	100%	99%	109%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	0	0	0	-	0	0
	基準年度比	-	-	-		-	-
自動車による二酸化炭素削減	kg-CO2	6,238	6,175	4,455	○	6,113	6,050
	基準年度比	100%	99%	71%		98%	97%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	43,772	43,335	45,321	×	42,897	42,459
一般廃棄物(可燃物)の削減	kg	45	45	55	×	44	44
	基準年度比	100%	99%	122%		98%	97%
建設系産業廃棄物の削減	kg	54,545	54,000	59,201	×	53,454	52,909
	基準年度比	100%	99%	109%		98%	97%
水道水の削減	m	112	111	105	○	110	109
	基準年度比	100%	99%	94%		98%	97%
化学物質管理(PRTR)		適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理
評価							
本年度の二酸化炭素排出量は全体として増加傾向にあり、特にガソリン使用量においては目標値に対して約20%の超過が確認されました。この著しい増加の要因としては、対面型の営業活動や接客の機会の増加に加え、配送による車両稼働の増加が挙げられます。これらは業務上の必要性に基づくものである一方で、排出量管理の観点からは重要な課題と捉えています。							
【次年度の取り組み】 引き続き営業活動は維持しながらも、エコドライブの徹底やエアコンの運用改善を進め、排出量の抑制に努めてまいります。							

FIクリーン事業部		2022年	2023年			2024年	2025年
		(65期)	(66期)		(67期)	(68期)	
		基準年	目標	実績	評価	目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	1,867	1,848	1,720	○	1,829	1,811
	基準年度比	100%	99%	92%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	174.3	172.6	398.4	×	170.814	169.071
	基準年度比	100%	99%	229%		98%	97%
自動車による二酸化炭素削減	kg-CO2	14,150	14,008	13,168	○	13,867	13,725
	基準年度比	100%	99%	93%		98%	97%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	16,191	16,029	15,287	○	15,867	15,705
一般廃棄物(可燃物)の削減	kg	12	12	12	×	12	12
	基準年度比	100%	99%	100%		98%	97%
評価							
本年度の二酸化炭素排出量は全体として下降傾向にありました。ただし、その大部分が自動車による排出であり、自動車で長距離移動する部署であることから、市況や業績次第では再度増加に転じる可能性があります。							
【次年度の取り組み】 引き続き営業活動は維持しながらも、エコドライブやアイドリングストップを活用しながら排出量の抑制に努めてまいります。							

8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	許可の確認・契約・マニフェスト発行・保管基準・特管責任者・マニフェスト報告
道路運送車両法	車両の大きさ・重量、乗車の保安基準
道路交通法	車両の大きさ・重量、通行制限
PRTR法	PRTR対象物質の使用量集計
毒物・劇物取締法	盗難・漏洩防止・容器等の表示・施設管理・事故盗難時の届け出
建設リサイクル法	分別解体等及び再資源化等の実施義務・(元請業者)発注者への再資源化等完了報告と記録の保存

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

2023年10月1日から2024年9月30日まで外部からの環境上の苦情要望等はありません。

9.緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2024年2月1日	■実施場所：各支店にて個別に実施
■参加者： 各支店の職員	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練	
■評価： 手順書や消防署職員の指導に従い実施し基礎対応力を高めた。手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
■実施状況の様子 手順書に従い問題なく実施できた。	

10.代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年12月21日

<p>【前回の指示への取組結果】 当社のエコアクション21活動は、導入時期の現状把握・基本定着・習慣づけの期間を経て、環境経営・SDGs経営への応用ステージに移ろうとしています。とは言え、組織としての節電や省エネ活動に対し、他人ごととして取り組む場面も見られ、ひとり一人の意識の向上を継続して求める必要があります。</p>	
<p>＜情報＞</p>	<p>＜見直し・指示＞</p>
<p>◇自社を取り巻く環境問題の変化 （社会的情勢、利害関係者の要求等） 当社業界でも環境経営は、省エネ・廃棄物削減など環境負荷を軽減させ、コスト削減につながります。環境負荷の少ない製品・サービスの提供や活動は喫緊の社会要請でもあり、CO2排出量の削減やカーボンニュートラルは、今や企業の大小にかかわらずの課題になりました。 当社は、お客様にとっての価値を創造し、明るい未来を拓くよう様々な活動を行っていますが、それらはSDGs活動・サステナブル経営に資するものです。環境経営を推進することは、今のお客様に信頼いただくにも、未来のNCCファンを増やすにも必要な経営課題そのものです。EA21のツールを活用した脱炭素経営を推進して、お客様に対しても、また地域や地球環境にとっても「いい会社」となって、お客様から選んでいただける企業になることが、当社にとっていいことなことを心得ていくべきと考えます。</p>	<p>◇環境方針 ・次年度も活動を継続してください。 SDGsや環境経営へのシフトは急務です。SDGsの目指す目標は、我々の経営における様々な課題に繋がります。事業計画や働き方改革の上位目標として捉え、当社の業態拡大・革新、社会貢献をいかに進めていくか、具体的な施策を検討し、その存在意義を広く発揮していきましょう。ポイントは具体的な施策の策定と実行です。検討ばかりに時間をかけず、馬上行動をキーワードとしてこの取り組みを進めて下さい。</p>
<p>顧客の事業活動の効率化などに寄与する製品・サービスの提供や業務効率化による勤務時間の適正化（働き方改革）などを推進しました。 原油価格の高騰や円安の影響でかつてないほどの資材高騰に見舞われ、お客様は深刻な打撃を受けています。そのような中、いかに効率的に資材投入を図るかなどの提案活動を合わせて行い、結果的に当社の支持を拡大する機会となる例もありました。EA21活動において設定した社内の環境負荷の総量が増えたり、数値目標において幾つかの未達成はありましたが、環境経営を進めるに躊躇なく事業を展開した期になったと思っています。 □</p>	<p>◇環境経営目標・環境経営計画 ・環境負荷の総量削減の軸は変えずに取り組んでください。 各支店/各事業所における主体性をもった活動に期待します。社内の節電、省エネなどで掲げている数値目標の進捗にとどまず、お客様に対する環境負荷低減に寄与する提案や、その採用事例などにも注目して、当社の環境経営・SDGsに対する活動の理解を深めるよう努めてください。□</p>
<p>◇その他 ・利害関係者からの苦情・要請等はありません。 ・環境上の問題点等はありません。</p>	<p>◇実施体制他 ・実施体制は変えないで維持してください。 追加的に要員やプロジェクト化などが必要な場合は相談ください。</p>
<p>（総括） ビジネスの優位性を保ち、価値創造を図る上で、今や「環境対応」を抜きにお客様の満足は得られません。中小零細企業であっても、多くの川上企業さまはゼロカーボンを目指して協力を求めてきますし、省エネルギーに対する行政の補助金政策も旺盛です。SDGsという用語も社会に広がり、事業活動においては、環境負荷の少ない商品や環境ソリューションを提供するサービスが、他社との差別化を図るポイントになっています。 すでに当社では中・長期的な経営計画における重点方針において、これまで基本方針であった「時代に応じた強みづくり」「顧客の強みづくり貢献」「業界のモデル企業化」、それらのすべてに、『環境対応』を課題とする先進企業化を目指すことにしています。 私はSDGsが掲げる開発目標は、人が幸せになる三つの要素（やすらぎ・つながり・達成感）を内包していると受け止めています。当社は全社員で幸せになることと、SDGsの目標を達成することを同期させる「幸せ経営」を目指します。エコアクション21を活動のツールとして積極的に活用することで、社員一人ひとりが主体的に考え、必要な行動をする、環境経営や幸せに働く経営の主役となっていきましょう。</p>	
<p>2024年 12月 21日 代表取締役 原田 学</p>	

- | | | | |
|-----------|--|-------------------------------|--------------|
| 環境経営方針 | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり | |
| 環境経営目標・計画 | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり | 実績を踏まえて見直すこと |
| 実施体制他 | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり | |